

平成 27 年度弘前大学グローバル人材育成事業モデル事業

学 生 市 民 等 協 働 プ ロ グ ラ ム 報 告 書

申 請 者	所属部局・職 名	人文学部・教授
	氏 名	黄 孝春
事 業 名	県産りんご輸出拡大のテスト販売事業	
事業の概要とその成果		
【構成メンバー】10名 ・チームリーダー 人文学部 黄 孝春 教授 ・指導教員 人文学部 黄 孝春 教授 ・参加学生 人文学部 3年生 5名 " 人文学部 4年生 1名 " 人文社会科学研究科 大学院2年生 1名 ・市民, 企業人 ほたる農園園主 アップルカンパニー 社長		
【実施期間】 平成27年12月22日～平成27年12月29日		
【事業概要とその成果】 今回の事業は上海市と台北市での県産りんごの消費者動向を調べ、ふじ、王林、トキなどの既存品種と今後輸出が期待される赤い果肉のりんごの試食販売を通じて輸出拡大の方策を考えていくことを目的としている。 まず上海市の西郊輸入果物卸売市場への実地調査、輸入商社 JCK への聞き取り調査を通じて、中国大陸における輸入果物の販売状況について考察したうえで、JCK の協力を得て現地の高級食品専門店 OLE の2店舗で県産りんごの試食販売を行った。現地に持ち込んだ赤い果肉のりんごが2箱しかなかったため、今回は試食だけにとどまり、その販売は行わなかった。株式会社 BeTogether Corporation 代表取締役宮崎弘道社長は五所川原市の赤い果肉りんごのブランディング化事業(ふるさと名物応援事業)においてファシリテーターの役割を果たしていることから上海での試食販売活動に同行していた。 次に台北市の農産運銷輸入果物卸売市場への実地調査、輸入商社ポミナーへの聞き取り調査を通じて、台湾における輸入果物の販売状況について考察したうえで現地の中和環球というショッピングモールと、大潤発というスーパーマーケットで県産りんごの試食販売を行った。 すべての日程にアップルカンパニーの工藤昌吾社長が同行していたが、ほたる農園の中田信雄園主は出発直前に足に怪我という事故があつて渡航をキャンセルせざるを得なかった。		

現地調査と試食販売に先立ち、その準備として青森県産りんごの歴史や特徴について学び、また品評会など地元主催のイベントを見学すると同時に、中国や台湾の政治経済社会事情、文化、言語についても勉強した。また同行予定の企業人に来ていただき、事前の打ち合わせを行い、また現地での試食販売に必要な宣伝グッズ、ポスターなどを県庁と県りんご対策協議会に依頼し、送ってもらった。なお、一部の資材や試食販売の必需品は私費で購入した。また上海と台北での試食用りんごは、JCK とポミナーの好意により用意していただいた。

今回の事業は県産りんごを主要輸出先での試食販売などを通じて、参加学生の国際ビジネス感覚を涵養することが本プログラムの教育目標である。そのうえで、輸出先の消費者動向を把握し、県産りんごの輸出拡大の課題とその解決策を提示することを目指している。

まず、現地調査や上海で県産りんごの販売に手がけている齋藤社長、台湾で県産のりんごを輸入、販売する李社長、また同行する企業人の解説で県産品の良さと特徴に対する理解が深まり、またそれを販売していくための注意点や課題などについても感覚的にわかってきた。

次に現地の百貨店で直接消費者に試食販売を行うため、消費者の嗜好や購買習慣、食文化の違いなどを知る絶好の機会となった。また販売ブースの企画立案や現地販売店に対する企画提案、プランニングの方法やブランディングの重要性について貴重な経験を積むことができた。

次に現地販売研修において消費者に県産品の説明やアピールの仕方を学ぶことができた。上海と台北の 2 か所での実施が中国大陸と台湾の市場の特徴や消費者の嗜好などの共通点と相違点を比較することにより機会を提供した。

最後に今回のプロジェクトを通じて、文化の違い、街づくりの相違、現地における日本文化の浸透度、経済制度の違いなど多くのことについて経験することができ、今後の勉学によりヒントを与えることになったと思われる。

1 月中旬現在、参加学生全員に渡航の感想文を提出してもらった。今後、試食販売に関するアンケート調査のデータ集計と分析を行い、社会人の参加を得たゼミ発表会を計画している。それを踏まえてグローバル人材育成事業発表会で成果を発表し、地元の関係者に有益な情報を提供できることを目指したい。